# トピックス

## 技術継承を公民連携で

### 北奥羽地区水道事業協議会

### ～メーカー招き減圧弁の実務研修開催～

## 八戸（企）主導で連携醸成

### 15事業体が参加し共に研鑽

森田鉄工所社員から減圧弁のノウハウを学ぶ

八戸圏域水道企業団が核となり、平成20年1月に設立された「北奥羽地区水道事業協議会」の活動が注目を集めている。同協議会には青森県南部・岩手県北部のいわゆる南部地域の1企業団・21自治体の水道事業（簡易水道等も含めて26事業）が参画し、研修会等を通じて情報の共有を図ると共に共通の課題克服に向けた連携が図られている。近年は、座学による研修会のほか、配管技能講習会や応急復旧用資機材保有状況調査、実技配管講習会など、実務面での連携や技術力向上を睨んだ取り組みが活発化してきている。

昨年8月には、メーカー関係者を招聘して減圧弁講習会を開催している。招聘されたのは森田鉄工所。同社では1981年頃から、毎年オート弁（減圧弁）研修会を同社施設で事業体職員らを対象に開催している。この研修会は、水圧を動力源に無電源で自動的に作動して出口圧力を一定保持するオート弁（製品名＝MRF－100型減圧弁）の取り扱いについて講習するもので、送配水管の圧力・水位・流量制御用に最適な同弁の構造・作動原理・維持管理について、実習を含めたカリキュラムで学べる充実したメニューになっている。

八戸圏域水道企業団は20年程前から毎年職員を参加させていたが、昨年は同企業団の「水道技術研修センター」の落成に伴い、同センターにおいて「オート弁研修会」を2日間にわたり開催した。同企業団では、この研修会開催に際し、同協議会参加団体にも呼びかけたところ、15事業体が参加。減圧弁の維持管理という水道事業のルーチンワークを支える仕事に関する技術継承が公民連携によって広域的に実施された。

研修会では、実際に維持管理業務に携わっている職員から具体的な質問が多々寄せられたというが、それも水道事業の維持管理の現場でも世代交代が進んでおり、減圧弁に詳しい技術者が少なくなったことが影響しているのは明らかだ。この深刻な課題を地域で連携して民間企業の力を得ながら実践しようという試みは、まさに〝緩やかな広域化〟の模範事例と言えるだろう。

**小島賢悦・同企業団事務局長の話**…当企業団の減圧弁は125箇所設置されており、そのうち森田鉄工所製が106箇所であることから、これまで、埼玉県幸手市にある森田鉄工所さんの工場での研修に平成3年頃から毎年2名程度派遣しておりましたが、このたび同社のご厚意により当企業団の研修施設で減圧弁についての座学・分解組み立て作業研修を実施していただき本当に感謝しております。当初、当企業団職員20名の研修予定でしたが、せっかくの機会ということで北奥羽地区水道事業協議会のメンバーに案内しましたところ15事業体24名の参加をいただき2日間の研修となりました。参加者の感想として、「減圧弁の分解・組み立て作業により構造が理解でき非常に有意義であった」、「これまでメーカー任せだったが簡単な調整は直営でやってみたい」等前向きな意見がほとんどであり、今後ともこのような形で研修を継続していきたいと考えております。

15事業体24名が参加

「株式会社水道産業新聞社　2012年1月1日付(23面)掲載記事」

※株式会社水道産業新聞社の許諾を得て転載しています。記事の著作権は株式会社水道産業新聞社に帰属します。